

(様式1)

北海道当別高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言 PartⅡ)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和8年度に重点化する取組及び具体的方策		
5つのミッション 8つの行動計画		行動計画の中で重点化する取組	目標達成 期 間	具体的方策
Ⅰ グローバル教育で 人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	○資格取得の推進し教育の質の向上を図る。 ○農業クラブ活動等をととして、各々生徒が活躍できる取り組みをする。	A	○農業技術検定／情報処理検定／希望者：製菓衛生師等の資格取得に向けて PDCA を軸に進める。 ○各専門分会等で地域と協働学習を進め、教育効果を高める。
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	○Gap や HACCP など国際基準の安全・安心な農業教育を推進する。 ○国際文化・食の違いを理解し、融合を図る取り組みを実施する。	B	○農業実習や圃場管理をするに際し、GAP や HACCP の意識づけを強化する。 ○本校や地域住民でもある外国人との文化交流を進め、融合を図る。
Ⅱ 地域社会・産業に 寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	○地域の風土や特色を理解し、地域協働を目指した特色ある農産物の生産を目指す。	B	○探究活動やプロジェクト学習において当別町の歴史・風土を学習し、地域協働で進めることができる農産物を生産する。
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	○生産・加工・販売までの一連のフードシステムを学ぶ過程で、地域企業や団体との連携を深め、質の高い教育を目指す。	A	○生産・加工・販売の各セクションでの地域連携を強化して、地域一帯となった授業展開をする。6次化教育を進める中で、深い学びを目指す。
Ⅲ 地球環境を 守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	○有機農法を推進する。また、農場残渣物から堆肥作りを行い持続可能な農業を目指す。	B	○圃場における減農薬栽培を推進し、生物多様性の保護・拡大を目指す。 ○堆肥づくりから循環型農業の学習・活用を目指す。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	○当別町特産物原料の利用を目指す。 (1) 小麦の利用 (2) 亜麻の利用 (3) ブルーベリーの利用	A	当別町原料を使用することで、地域活性・貢献を目指す。 (1) 当別町産小麦→パン製造・普及 (2) 当別町亜麻→パウンドケーキ製造・普及 (3) 当別町ブルーベリー→ブルーベリージャム製造・普及
Ⅳ 地域交流の 拠点となる学校	7 「Society5.0 の時代に応じた教育」を行います。	○農業における情報技術の正しい利用方法を学び、ICT 農業を促進させる。	A	○タブレット端末を活用した授業展開を進め、科学的データ分析を行う。また、アグリノートを活用した圃場計画や管理を実践し、ICT 化を図る。
Ⅴ 地域防災を 推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	○職員及び生徒が一人ひとりが地域の一員である事を認識し、日々地域の防災のために尽力する。	B	地域ボランティア活動に積極的に参加し、当別町の一員であることを自覚する。